



発生動向等サーベイランス情報

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎にご注意を

～例年に比べ多い状況が続いています～

突然の発熱や咽頭痛、全身倦怠感などの症状を引き起こす感染症です。

幼児期から学童期の小児に多く見られ、患者との接触により感染が広がります。

早期に適切な抗菌薬治療をしないと、腎炎等の合併症を引き起こすことがあります！症状が消えた後も、医師の指示に従い、最後まで薬を飲みきることが大切です。



★飛沫感染、接触感染によって広がる

★感染対策：患者との接触回避、手洗い、マスクの着用

定点当たり報告数 トップ5 (R6.8.28現在)

1	新型コロナウイルス感染症
2	手足口病
3	感染性胃腸炎
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
5	流行性角結膜炎



(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは)

感染対策のポイント

シリーズ3：家庭内感染に注意



成人同士の一般的な接触程度ではうつりにくいけれど、家庭内（共同生活）での接触レベルになると流行しやすい感染症のひとつがA群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。特に幼児期までの小さなお子さんがいらっしゃる場合には、日常の接触の程度が濃厚となりやすく、お子さんから菌をもらってしまうことも少なくありません。小児の場合、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎になると抗菌薬治療が必要です。抗菌薬治療を行えば、1日程度で他者への感染性が著しく下がります。感染対策の観点からも早めの受診を検討しましょう。

感染症専門家からのアドバイス



A群溶血性レンサ球菌は、皮膚にも感染症を起こします。赤く腫れて痛み、熱を持ったようになることが典型的です。稀ではありますが、菌の毒素によって皮膚・軟部組織・筋膜が壊死したり、敗血症や多臓器不全に至る重篤な病態が起こることがあります（劇症型溶血性レンサ球菌感染症）。A群溶血性レンサ球菌が流行している時期の皮膚の発赤・熱感・疼痛には十分注意し、悪化するようであればすぐに受診して下さい。